

【シンポジウム報告】

2023年2月26日(日)、東海大学高輪キャンパスで、「パートナーシップに基づきサービス・ラーニングをどう進めるか」と題したシンポジウムが開催されました。参加者は20名ほどと小規模な会合となりましたが、登壇された3名の先生の発表内容はとても刺激的かつ意義深いものであって、実り多きシンポジウムとなりました。

登壇者と各自の発表題目は、以下の通りです。

1 杉原真晃（聖心女子大学）

サービス・ラーニングにおけるパートナーシップの形成と広がり

2 川田麻記（桜美林大学）

町高定×桜美林大合同プロジェクトにおけるパートナーシップの構築について

～大学内の複数部局の協力と組織・社会の変容の可能性～

3 高松森一郎（群馬国際アカデミー中高等部）

SOFARモデルを活用した評価分析の事例

～日本の前期中等教育段階におけるサービス・ラーニングの実践と課題～

シンポジウム前半は3名の登壇者の発表、後半は質疑応答という形で進められました。なお、コーディネーター（兼司会）は、唐木清志（筑波大学）が務めました。

まず、杉原先生からは、聖心女子大学の総合現代教養科目「地域づくり演習」におけるサービスラーニング実践をもとに、パートナーシップの拡張・移転、パートナーシップの可能性と課題についてご提案をいただきました。渋谷区笹塚十号通り商店街での高齢者に対する「スマホ相談会」の活動が、渋谷区恵比寿での高齢者の「スマホ教室（えびすまほ）」へと発展していった様子を、パートナーシップを視点にご紹介いただきました。

次に、川田先生からは、桜美林大学と東京都立町田高等学校定時制課程（略称「町高定」）との合同プロジェクトという形で進められているサービスラーニング実践をご紹介いただきました。桜美林大学の日本語教育ゼミから始まったサービスラーニング実践が、さまざまな人や組織をつなげ、パートナーシップを築いていく様子をご説明いただきました。また、今後の課題として、学内の複数組織による実践の調整をどう図るかに触れていただきました。

最後に、高松先生からは、ぐんま国際アカデミー中高等部における国際バカロレア中等教育プログラム（IBMYP）のサービスラーニングの実践をご紹介いただきました。具体的には、総合的な学習の時間とLHRを連動させて中1・中2・中3のサービスラーニングを系統的に組織していること、各教科においてもサービスラーニングが展開されていること、そして、これらの学習活動を通して学校に様々な関係性が築かれていることに触れていただきました。

休憩を挟んで、活発に質疑応答が行われました。発表者に向けられた質問の論点は複数にわたりましたが、ここでは特に印象に残っている論点を三点ほど紹介します。一つ目は、サービスラーニングを通して、学習者の市民としての成長や学びの深まりをどのように期待してきたのか。二つ目は、さまざまなパートナーシップを築きながらサービスラーニングを充実させるためには、中間支援組織の役割が必要だと思うが、それについてどのように考えるか。三つ目は、サービスラーニングにおけるサービスとラーニングの同等性をどのように考え、その考えを実践にどのように生かしていくべきなのか。

今後も、JSLNではこのような企画を組織・運営します。ぜひ積極的にご参加ください。

（文責 唐木清志）